

## 日頃の準備

### ①自宅避難 + 必要物資を自宅で備蓄

避難所に入れない 避難所:地域防災拠点・矢部小 収容数 60名 対象:11町内会 約 1.3万人  
支援物資は足りない 首都圏の地域防災拠点は多数。支援物資が十分に配布されるとは限らない

- ②発災時の場所(在宅、買物中、職場、電車の中など)毎に、命を守るための対応方法を考えておく。
- ③家具の耐震補強。家族内での安否確認方法、親族等の短期避難先、高齢者の2次避難先の検討
- ④3日~1週間分の必要物資備蓄 (消耗品をローリングストック)

水(1人1日3ℓ)、トイレパック(1人1日5回分)、食品(1日3食分)、乳幼児・要介護者・ペット用品  
紙・ウエットティッシュ・紙皿コップ・ラップ・ビニ袋・新聞紙・タオル・軍手・生理用品・救急医薬品  
モバイルバッテリー、電池・懐中電灯・ランタン・ラジオ、ポリタンク、カセットコンロ・ガス

## 地震発生直後

### ①少し広い場所:12班駐車場、柔道場前、7班駐車場、三角公園

地震が収まり集まった近隣住民で救助や消火活動

### ②火災発生したら、まずは消火スプレーで消火

消火栓からの放水は、延焼防止で火災家屋の近隣への注水が基本

### ③町内防災本部「いっとき避難場所」震度5強以上に設置、防災倉庫前(or3班山田宅前 or 三角公園)

防災本部長:町内会長→防災部長→防災レジェンド→副会長 (防災本部にいる上位者が本部長)

### ④家族が無事なら玄関にタオルをかける

### ⑤町内防災本部に集まった役員、班長、家庭防災員などが2人1組で町内の安否と被害状況確認

タオル掲出がない場合、玄関ノックや庭に回って確認

不在の場合、帰宅後に防災本部に安否連絡するように書いたメモをポストに入れておく

### ⑥「広域避難場所」(八幡山一帯):避難している学校や公園、空き地が周囲の大火災の延焼で危険になったとき、煙や熱から身を守るために避難する場所

## 地震発生翌日以降

### ①町内防災本部を「青少年会館」に移動。竹の下町内会と合同

### ②復旧に至るまでの活動:防災本部長が、担当者や方法などを決定。長期間となる場合は当番制

・被害状況、避難状況の把握

親族宅などに避難する場合、避難先と避難者人数を本部に連絡

自宅避難者の確認は、救援物資の数量に影響する。町内会員に限らず町内居住者全てに実施

・情報班:地域防災(行政)との連絡、住民への周知等

・給食・給水班:救援物資の受け取りと配布、炊き出し等

「地域防災拠点運営委員会(矢部小)」で支援物資配給。町内単位で配給(個人単位の配給なし)

・防犯班 防犯部を中心に、発災後、1週間程度はパトロール

・「要支援者」に、要支援者避難所への避難と町内備蓄の支援物資を優先的に提供

・高齢者や乳幼児世帯などの2次避難を推進

### ③情報連絡「マチコミ」、LINE公式アカウント、町内会 WEB サイトで連絡。(事前登録をしてください)

メール連絡網「マチコミ」登録用メールアドレス endm5276@machicomi.jp に空のメールを送信

LINE やとやべひがし公式アカウント登録 <https://line.ee/wAYLk3l>

町内会 WEB サイト <https://www.yatoyabe-higashi.com/> 「やとやべひがし」で検索